

メトロール

成長企業チカラの源泉

「持たざる経営」を実践し。工作機械に使われる接触式刃先位置決めセンサーで世界トップシェアを持つメトロール。同社は事務所や工場などの固定資産を持たない経営を貫いている。工場などの不動産は賃貸で、資産総額に占める流動資産は70%という。そこには社長の松橋卓司の「刻々と変わる外部環境に対応するために身軽でいるべきだ」との信念がある。

在庫管理を徹底

メトロールは製品在庫の管理も徹底している。90%以上が受注生産で、「3週間後の生産計画は立てていない」と明かす。在庫を持たないことで、保管費などの収益を悪化させる要因をできるだけ排除している。

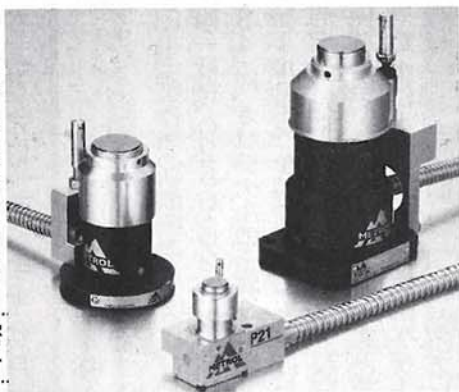
強気な経営を可能にする背景には、同社の技術力がある。治具とワーク（加工対象物）の精密着座の確認に役立つ繰り返し精度が、0.5μm（マイクロは100万分の1）のエアマイクロセンサーなどのオンリーワン製品を常に開発している。「応用製品を含めると、年間10製品程度は開発

している」と強調する。

情報交流

この製開発力の基礎となっているのが、営業や技術などの部門の垣根を越えた従業員同士の情報交流だ。オフィスフロアには開

発や営業、事務部門などのセクションが集められ、パターションで仕切られていない。精密機械技術や空圧技術、電子技術などの技術者だけの打ち合わせだけでなく、その中に営業部員が自然に加わる企業文化が根付いている。また顧客ニーズについての情報を社内イン



「持たざる経営」

変化する外部環境に対応



社長 松橋卓司氏

「考え方の場合、それが製品になる」。松橋はこう自社を例に公開する。トラダ。各自がプロフェッショナルとして担当する楽器がある。プロの演奏家が意見を出し合って議論すること、一つの楽曲を奏でることが出来る。メトロールの場合、それが製品になる。松橋はこう自社を例

メトロールの精密位置決めセンサー

え、従業員が主体的に考え行動することを推奨する。外部環境に迅速に対応するために、持たざる経営を軸にするメトロール。この経営手法を支えているのは、各部門を越えた交流によってオンリーワン製品を生み出す「人材力」だ。「付加価値を生み出していかなくては生き残れない。イノベーションが沸いてくるような強い組織を作っていく」と熱く応える。（敬称略、西東京・尾内淳憲）

【企業プロフィール】

▽住所 東京都立川市高松町1の100▽社長 松橋卓司氏▽設立 76年6月▽売上高 17億5000万円（15年1月期）

（火曜日に掲載）

モノづくり基盤・成長企業